

国際水資源学会 (IWRA)* の発足に際して

堀

博**

1. はしがき

1972年5月のある日、思いがけずウィスコンシン大学土木工学科教授カラジ博士から手紙で新設の国際水資源学会の創立会員の誘いを受けた。カラジ教授とは面識がないが、旧知のイリノイ大学チャウ教授が同学会の会長になられた関係で、そのご推薦によるものだった。

入会し出版委員に任命されて以来、土木学会誌その他をできるだけ注意してみるようにしているが、私の知る限りでは、このきわめて興味ある新設国際学会の記事が見あたらぬので、チャウ教授にご相談したところ、ぜひとも広く紹介して欲しい旨の依頼を受けた。

思うに、わが国の水関係研究者、実務専門家ならびに団体・機関にとっても、国際的に広く水関連活動に寄与し意見の交換をはかる水の世界組織が創立されたことはきわめて歓迎すべきことではないだろうか。

2. 設立趣旨

水に関連する国際的な調査研究活動は、従来からかなりの数にのぼっている。そうした国際活動をみると、おおむね政府ベースか国連機関の手によりなされているようである。たとえば、UNESCOが、水文関係で国際水文10年計画(IHD)を推進していることは広く知られているし、WHOもFAOもそれぞれの担当分野で水資源開発の国際協力の実をあげている。

一方では、少数ながら政府や国際機関によらないものもみられる。たとえば、国際水理学会(IAHR)、国際水道協会(IWSA)や国際水文科学協会(IAHS)などが然りである。

これら国際組織の活躍の中身を見てみると、おおむね水資源の一部特定分野を対象としてその研究活動を発展させることに精力を集中しており、どちらかというところ、広く水資源の全分野を網羅して、世界各国の学者・実務

専門家らが手をつなぐような動きは活発ではなかったように感じられる。そのため、ここになにかより普遍的にして自在な水資源関連活動をする国際的な協力機構をつくり出そうという欲求が、過去数年にわたって、ことに欧米の関係者の間に高まってきたのである。

このような国際的な水資源全体にまたがる広範な研究・活動・発展を自在に行なうには、非政府ベースで、しかも非営利的な組織であることが望ましいが、このたびイリノイ大学土木工学科水理工学教授ヴェン・テ・チャウ博士(Dr. Ven Te Chow)を中心に新しい国際組織が創立されるに至った。

チャウ博士の手紙によれば、創設の直接の発端は、1971年にアメリカ合衆国ウィスコンシン州で開かれた「揚水式貯水池の開発とその自然環境に及ぼす影響に関する国際会議」に全世界から参加した人びとのうちの何人かが、チャウ教授と新組織の結成を討議したことに始まったようである。このアイデアは実を結んで、翌1972年4月1日、同教授を会長とする国際水資源学会(仮訳)(IWRA)がウィスコンシン州立大学に誕生した。

国際水資源学会(IWRA)は、従来の国際学(協)会の活動と競合するような会活動はいっさい避け、それら在来諸組織・団体の活動間のギャップを補完・調整するブリッジのような役割をすることを意図するものである。そのねらいは、オーバーオールな全分野的視野において水の問題を捕えることにあり、他の組織・団体の活動と競合したり衝突したりせぬよう、みずから極力いましめている。この点がとくに強調されているところである。

3. 新学会のねらいと組織活動

新設国際水資源学会のねらいと意図する行動につき、以下に同学会発行の紹介パンフレット全文を訳出・紹介する。その中に述べられているように、学会はその最初のアクティビティとして、「人間環境にとっての水」(“Water for the Human Environment”)という演題で、第1回世界大会を1973年9月24~28日、アメリカ合衆国シカゴ市シェラトンホテルで開催する予定である。参加希望者は、入会申込み宛先と同じく、同事務局宛連絡されるとよいと思う。

* 正式名称は次のとおり。

INTERNATIONAL WATER RESOURCES ASSOCIATION

** 正会員 電源開発(株)からアジア開発銀行に outward。

国際水資源学会の目的と活動 (翻訳)

1. 目的

国際水資源学会の主目的は

- ① 水資源に関連した企画・開発・経営管理・行政・科学・技術・研究ならびに教育を、国際的レベルにおいて推進する。
- ② 水関係の計画担当者・行政管理者・企業家・科学者・技術者・教育者・その他すべて水資源に関与する者に、国際的な討論の場を提供する。
- ③ 国連ならびに国連機関その他の国際機関や国内各団体への協力を含め、すべて水資源の分野における国際的な諸計画の調整をはかり、かつそれを支援する。

2. 活動

(1) 会合

国際水資源学会は、水資源に関して目下関心を持たれている重要なトピックを論議する国際的な場を提供する目的で開かれる大会やシンポジウムを後援する。第1回水資源世界大会として、人間環境保全の一環たる水の問題を取り上げる。次いで、海上空港とその環境問題に関する国際的シンポジウムを開催(アメリカ合衆国シカゴ市・1973年5月)する。

(2) 出版刊行物

国際水資源学会は、主要活動の一つとして、世界の水資源全般にわたるアイデアを紹介し、情報を提供する。出版物として「国際水資源ニュース」(Water International Newsletter)・「国際水資源雑誌」(“Water International”)・水資源に関する選抜論文集(Selected Works in Water Resources)・「大会ならびにシンポジウム議事録」などを刊行する。

以上のうち「国際水資源ニュース」は、当学会のニュース・当学会および会員の諸活動、その他国際水資源の分野における重要かつ興味ある事件を報道する。「国際水資源雑誌」は1973年に初版発行の予定であるが、世界のおもな水プロジェクトの関連記事を掲載する。取り上げる題目としては、プロジェクトの資金面・企画・開発・設計・建設・運営・管理・経済社会面・生態学的諸問題・環境問題・その他国際的に関心をひく諸問題に関するものとし、その評論・レポート・ニュースなどを掲載する予定。「水資源に関する選抜論文集」は年刊とし、世界の水資源に関し、とくに重要と思われる既刊・未刊の論文集を刊行す

る。「大会ならびにシンポジウム議事録」は、そのつど出版する。

3. 学会の運営

執行理事会は次の構成になる。

- ① 学会事務局：会長・元会長・副会長4名、ほかに事務局長・経理担当者、
- ② 学会理事：10名以内、
- ③ 学会委員長：5名

評議会は、執行理事会員および世界各国の国内委員会委員長からなる。総会は、国際水資源学会の年次総会出席者よりなるものとする。

4. 執行理事会

(1) 事務局 (敬称略)

会 長：ヴェン・テ・チャウ(アメリカ合衆国・イリノイ大学教授)

副 会 長：K.L. ラオ (インド・かんがい電力大臣)

同 : F. ブリオネス (スペイン・水理協会理事)

同 : ホセ・レイテ・デ・スーザ(ブラジル・リオデジャネイロ大学教授)

同 : F.N. ミカイル (ウガンダ・国連 WMO 専門家)

事務局長：G.M. カラジ(アメリカ合衆国・ウィスコンシン大学教授)

経 理：ロイ A. ウィリアムス(アメリカ合衆国・ニューポート造船会社材料研究所長)

(2) 委員長

① 国内委員会調整委員会：L.A. ヘインドル (アメリカ合衆国・国際水文 10 年計画国内委員会事務局長)

② 国際協力委員会：サンダー・C. カラニー (アメリカ合衆国・イリノイ州立水道水文専門家)

③ 会員増強委員会：ウィリアム・S. ブッチャー (アメリカ合衆国・大統領府科学技術局水資源研究委員会会長)

④ 出版委員会：レイモンド・J. クリゼク (アメリカ合衆国・ノースウェスタン大学教授)

⑤ 技術計画委員会：ハーバート・C. プルール (アメリカ合衆国・シンシナティ大学教授)

(3) 執行理事

エリス・L. アームストロング (アメリカ合衆国・開拓局コミッショナー)

APPLICATION FORM for MEMBERSHIP in the INTERNATIONAL WATER RESOURCES ASSOCIATION

(Family Name, or Registered Name of Applicant)		(Given Name)		(Middle Name)	
[] Member (U.S. \$15.00) [] Constituent Member (U.S. \$100.00)		[] Corporate Member (U.S. \$125.00)		[] Institutional Member (U.S. \$75.00)	
Rank or Position _____		Dept., Div., or Section _____			
Company or Institution _____					
Check Mailing Address					
Business [] _____					
No. & Street _____		City or Town _____		State _____	
				Code _____	
				Country _____	
Home [] _____		State _____		Country _____	
No. & Street _____		City or Town _____		Code _____	
				Country _____	
Nationality _____			Date of Birth _____		
Education (Highest Degree, Year, School) or Experience _____					
Area(s) of Major Interest in Water Resources _____					
Date _____		Signature _____			
(or name of representative in case of nonindividual member)					
[] Membership dues enclosed		[] Membership dues sent separately		[] Membership dues can be forwarded only upon approval of this application	

図-1

深橋俊一(日本・日立製作所技師長)
エミール・F. モソニー(西ドイツ・カールスルーエ大学教授)
T.H. シムラー(オーストラリア・水経済ならびに水工構造物
建設研究所理事)

イラジ・ヴァヒディ(イラン・電力水資源省)
ディモ・ヴェレヴ(ブルガリア・科学アカデミー水問題研究所
理事)

J. ガヴィン・ワルノック(カナダ・エーカーズコンサルタン
ト副社長)

5. 会 員

水資源関連全分野、水に関連した環境問題の国際的改善計画
などに興味を持つ個人・団体はすべて会員たりうる。

会員は各委員会への参加、諸会合への出席、出版刊物の入
手などを通じて、水資源の科学的技術全分野における相互の国
際協力を深めることができる。

会員には、個人会員・団体会員(Constituent Members, Cor
porate Members, Institutional Membersの別あり)の区別が
ある。会員申込みは、前記の規定の申込様式(図-1)を用いて
前記宛なされた。

Dr. Gabor M. Karadi

Secretary General

International Water Resources Association

Science Complex Bldg., University of Wisconsin

Milwaukee, Wisconsin 53201, USA

会費(1972-1973年度)

個人会費(Members) \$ 15.00

団体会費 Constituent Members \$ 100.00

Corporate Members \$ 125.00

Institutional Members \$ 75.00

6. あとがき

創立後日も浅く、新設の国際水資源学会の将来は未知
数である。一方、在来の国際的水関係組織との関係も簡
単には割り切れないところがあるろうし、なにか似たよう
な感じはぬぐい切れないのも当然である。とくに国際水
理学会との間柄において、その感じは否めない。また、
首唱者がアメリカ人に片寄りすぎている感じもする。し
かし、この学会はすでに多くの賛同を得て設立され、わ
が国でも昨年以來、建設省河川局計画課がこの新設学会
の連絡事務局にあてられたとも伝え聞いた。問題点は
いろいろあるかもしれないが、広く水資源問題全般につ
いて語り合い、知識を深める広範な水の世界組織が誕生
したことは、わが国の水関係研究者・専門家その他関係者
一般にとっても喜ぶべきことと思われる。

この機関はどのようにも利用することができようが、
一つの提案として、これからますます盛んになるであ
ろう日本の水関係技術者の低開発国への寄与について、
世界の関係者たちに認識してもらい機会を得る場が、ま
たここで一つふえたとして、この学会をみることもでき
るのではないかと思う。(1973.4.25・受付)

フィルダムの設計および施工

山口柏樹/大根義男共著 B5・6000円

フィルダムの調査、設計、施工に関する一連の諸問題を土質工学的な立場から解明したもので、諸計
画の調査の方法から、止水、過剰水圧の評価、安定計算など広範にわたり、著者らが行った豊富な実
例を示し、理論と実際を詳しく解説、最近のフィルダム技術の概要を把握するには好個の書である。

交通工学ハンドブック

交通工学研究会編 A5・4800円

100名に及ぶ各分野の最高専門家が総力を結集し、交通工学の全分野を網羅、総合的、体系的にま
めあげた本邦初のハンドブック。理論から実際まで、広い範囲にわたり、最新の調査資料と図表を豊
富に加え、きわめてわかりやすく解説。一線現場の実務家および関連分野の方々の座右必備の書!

都市計画《講義と演習》

渡部与四郎著 A5・予価 2000円(9月下旬刊行予定)

【主要目次】 1. 都市の概念 2. 都市計画の概念とその歴史 3. 地域計画と都市計画 4. 都
市計画のあり方 5. 都市計画調査 6. 都市計画のたて方 7. 都市計画事業および同規制付 都
市計画例および関係資料

技報堂

東京都港区赤坂1-3-6/TEL.585-0166/振替口座・東京10

★図書目録送呈